

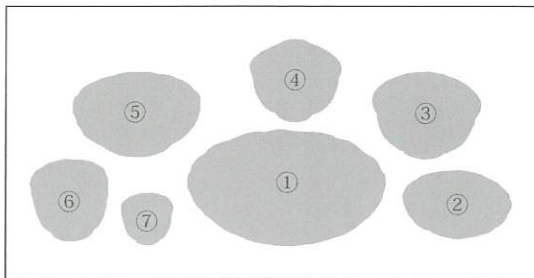


2 染付桐菊紋七ツ組膳碗 富永源六作 一揃

- 【① 焼物皿】口径二・七
- 【② 小皿】口径一・三
- 【③ 蒸茶碗】口径一・三
- 【④ 飯碗】口径一〇・六
- 【⑤ 膳皿】口径一四・五
- 【⑥ 猪口】口径七・七
- 【⑦ 小猪口】口径五・三

明治時代
聚心庵蔵
高台内染付銘「大日本源六製」

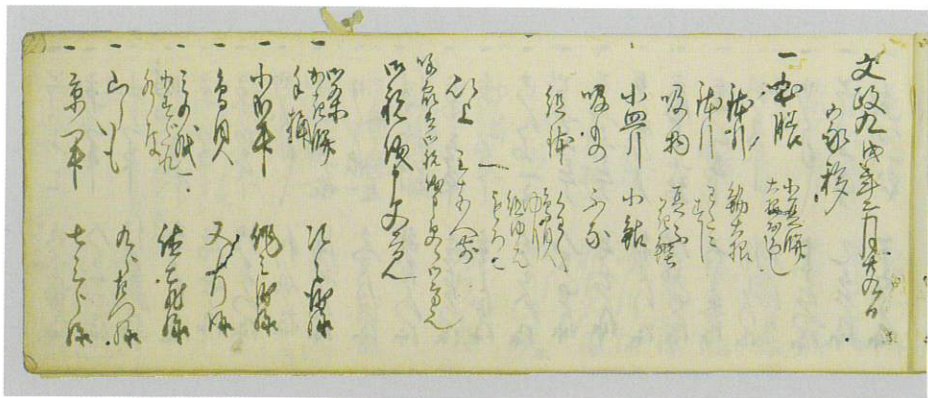
染付で桐と菊の文様をあしらった揃いの膳碗。作品①とほぼ同じ形の碗や鉢、皿の揃いですが、深皿が一種のみで、かわりに、茶碗蒸しなどの蒸し物を入れる蓋付の碗が加えられています。現在の佐賀県嬉野で、明治時代のころに制作された源六焼の作品で、作品①同様に塚本定右衛門家に伝来した品です。



3 諸式控 一冊

縦二・〇 横三・〇
文政九年（一八二六）二月、
明治二十九年（一八九〇）十月
聚心庵蔵

有力な湖東の商家として知られる塚本定右衛門家で執り行われた婚礼や家移り、出産、元服などの行事の記録。祝宴の出席者や献立、贈答品などが書き留められています。有力な商家ならではのといえる交友の広さががわれます。



4 献立書 一通

縦一・八四 横九・八四
昭和二年（一九二七）三月二八日
聚心庵蔵

塚本定右衛門家で行われた行事のなかで振る舞われた献立の記録。納屋孫という料理屋が注文を受け、塚本家へ納めた料理の控えです。二十三、十七回忌との書き入れがあるため、法事での献立と考えられます。野菜や湯葉、豆腐などを使った十種類の精進料理が記され、客により出された料理の数は異なるものの、総計六十人前の料理が求められており、会の規模の大きさがうかがわれます。

